

科学技術と人類 未来探る 京で国際フォーラム開幕

科学技術と自然との調和などをテーマに開幕したSTSフォーラム(京都市左京区・国立京都国際会館)



世界九十一カ国から科学政策担当大臣や科学者らが集い、科学技術の方向性を話し合う「科学技術と人類の未来に関する国際フォーラム(STSフォーラム)」の第五回

年次総会が五日、京都市左京区の国立京都国際会館で開幕した。「自然と情報の調和」と「情報通信技術の人類への影響」を全体テーマに据え、七日まで議論する。

開会式では、会議を運営するNPO法人(特定非営利活動法人)理事長の尾身幸次元財務相が「地球温暖化問題など科学技術に関連する問題は国際協力や各国の制度調

和が不可欠。グローバルな視点で共通の問題を議論すべきだ」とあいさつ。野田聖子科学技術政策・消費者行政推進担当相やノーベル化学賞受賞者のマリオ・モリーナ米カリフォルニア大教授らも会議の成果に期待を寄せた。
四十四カ国の科学技術担当閣僚らが地球規模の問題解決に向けた国際協力を話し合う大臣会合のほか、「科学技術の重要課題と発展」などをテーマにした全体会議や分科会なども開かれた。
会議全体の参加者は八百人を上回る見通し。六日の全体会議や分科会などの議論を経て七日に閉幕する。